

## コミュニティ・スクール情報

2022. 8. 1

## 第2回 三川中学校学校運営協議会 会議録

月日：令和4年7月14日（木）

時間：14：00～16：30

場所：三川中学校 3年学習室

- 授業参観 14：00～14：20
  - 1年生 英語・音楽・美術の授業
  - 2年生 国語・理科
  - 3年生 英語・道徳

## ○ 協議会

## 1. 校長先生からの近況報告

- ・これまで予定した行事が順調に行われてきた。
- ・田川地区駅伝大会男子優勝・女子準優勝、共に県大会。
- ・田川地区総体野球優勝。県大会出場25名。
- ・1年地域学習や2年の職場体験。命の講話等で、地域の協力、外部指導者来校で有意義な体験になった。
- ・紙粘土で和菓子づくり（美術）では、三川観光協会との連携で、子どもたちの作品の一部が商品化されることになった。子どもたちは学びが世の中にする喜びを感じている。
- ・来夢来人の活動では、ボランティア意識が高い。
- ・校則の見直しについては、身だしなみと着こなし、熱中症対策を意識して子どもたちで話し合い、今年度から体操着のTシャツの裾だしが認められた。（TPOに応じて）
- ・魅力ある学校づくり事業の成果かもしれないが、自己肯定感が高くなっている。（1期の調査結果一部ではあるが）

## 2. 学校課題「制服等の検討について」

## 教頭先生からの説明

- ・令和6年度をめどに新しい制服に切り替える。生徒の「寛容・共生・貢献」の心を育みながら、学校生活に対する主体性を高め、「魅力ある学校づくり」を推進する。
- ・生徒主体で制服改定をめざし、生徒も納得した状況にしていきたい。
- ・基本方針として、新制服の制定に向けて、生徒・保護者・地域との話し合いを大切にしながら進めていく。新制服決定までの間、引き続き、現在の男女制服に加え、男女共用制服を選べるようにする。
- ・共用の制服は、現在の1年生から実施し、数名が着用しており、なじんでいる。
- ・「多様な考えに対応できる制服の検討」をしていることについて理解していただきたい。
- ・今年中に「新制服案」を業者にプレゼンしていただくように進め、来年度7月頃までには決定したい。
- ・臨時的な共用の制服導入については、当初、突然すぎて様々な意見をいただいたが、今後の進め方やその意図を説明していく中でご理解を得てきたものと判断している。
- ・現段階で、生徒会長を委員長とする生徒・教員・保護者・地域代表による制服検討委員会案を提示。今9月に職員・生徒代表・保護者代表・地域代表からなる検討委員会を立ち上げたい。
- ・今後、生徒アンケート等を取りながら具体的な方向性を打ち出していきたい。



(委員からの意見)

- ・共用のブレザー型は、右前・左前あわせに対応しているのか。気にする人もいる。
- ⇒制服を作っていたら町内の企業から対応していただいている。中には、学生服を着用している女子生徒もいるが、特段、周りとの違いを感じない。
- ・他校の制服はどうなっているか。
- ⇒(現在のブレザー型制服の実例を提示)
- ・制服検討委員会の構成について具体的にはどのように考えているか。
- ⇒年代や性別などを考えながら、生徒も含めた委員を考えている。
- ・これからの着用を考えるのだから、委員には、関係する保護者や地域の方を多くしたほうがよい。
  - ・生徒中心という考えがあるのであれば、小学校PTAの母親委員とか当事者が関わることが最善。
  - ・大人と共に検討する時にも、ぜひ、子どもが意見をいえる雰囲気をつくってほしい。
- ⇒委員については検討していくが、小学校のPTAに関わっている人から声をいただく方向で考えていく。どのような制服にするのについては、「多様性に対応できる制服」という意見でまとまっているものの、次にどのような視点が必要かについては意見が分かれる。生徒や保護者の意見を聞きながら進めていきたい。意見を集約し、ある程度方向性を示すことも大切であるので、三川中の新制服A案かB案選択かその他という方向性を示していきたい。
- ・昨年度の協議会で、制服が本当に必要なのかという委員の方の声もあり、そこからスタートすることから生徒に考えさせたいという声があったが、その辺はどうか。
- ⇒生徒にすでに制服改正について検討しようとしていたことから元に戻すことは考えていない。



### 3. 部活動の地域移行について

- ・3年間をめどに(土日)の部活動を地域移行に変えていくことになる。平日の部活動も学校からきり離されることになるだろう。
  - ・地域指導者は、これまで学校との連携を大切にしながら、子どものことを大切に考えてやってきたつもりである。時には、初めて顧問となる部活について指導法など学んでこなかった教員を育てながら活動してきた。今後、地域以降になるにあたり、生徒にかかわって学校とどうかかわっていったらよいのか不安が大きい。
  - ・課題の一つを例にとると、部活動で子どもが怪我をした場合については、これまでは、学校の養護教諭の先生から手続き等をお願いしていた。今度は自分たちで申請などをする事となる。地域指導者の負担が増えることになる。
  - ・現在、地域指導者をやっているが、とても責任が重くなり続ける気になれない。部活動の計画から指導内容や連絡からすべて地域指導者が行うことになる。これまでは先生がいたから助かっていたこともあり進めることができたが、今後は負担が大きくなり自分は続けていくことができないだろう。
  - ・大会の運営についても同じで、先生方がいたから中体連などの大会運営ができた。それに先生方がかわらなくなれば、大会そのものもできなくなるだろう。
- ⇒現在、三川中学校のすべての部に地域指導者がいる。土日の部活動という点では、他の市町より活動そのものは継続できる。指導者の経費といった点では、今後受益者負担となってくる。その文化のないところにこの負担が保護者に加算されることはとても課題が大きいと考えられる。(謝金の課題)。また、指導者の養成という点でも課題がある。スポーツ少年団との関わりや大人の競技団体との関わりがでてくる。
- ・土日の練習はできる。練習試合等の開催までの連絡調整を行うことまではできない。
  - ・合同チームとなったときの調整はより困難になっていく。
  - ・スポーツ少年団からすんなり部活動への移行ができればよいのだが。

- ・子どもたちにどんな気持ちで部活動に取り組んでいるのか聞きたいと思う。本気で競技者として上をめざそうとする子には、その場を提供してあげたい。
- ・地域指導者にあわせた部活動にしていくと夜の活動が多くなったりする。子どもの負担が考えられる。
- ・行政と連携して必要な組織を考えていかないと長続きしていかない。
- ・鶴岡市の方針だと、教員は住所のある地域の指導者になれるが、住所外の勤務校の場合は指導者にならない。しかし、学校に勤めながら別の学校の中学生に指導するのもおかしいことである。
- ・地域格差のある中で、この政策が本当に効果あるものにするためには課題が大きい。
- ・子どもを優先し、自分たちの意識（学校にとらわれない）も変えていく必要もあるだろう。